

テーマ 自分の研究観を作ったのは、他の領域の本だった

浅田徹先生(文教育学部言語文化学科)

私は日本古典文学(和歌)の研究者である。しかし自分の研究姿勢・学問観を育てたのは、学生時代に読んでいた他領域の本だったと思う。今回は、専門領域の本はいっさい挙げないが、すべて私の現在の研究に結びついている。

書名 / 著者等. (出版社, 刊行年月, シリーズ名)	請求記号	配架場所
失敗の科学史 / 筑波常治, 大沼正則編著 (日本放送出版協会, 1973.7)		* 入手困難なため、先生個人の蔵書を展示します(貸出不可)。所蔵している国際子ども図書館や公共図書館などを利用下さい。
実は、これは当時読んだ本ではない。学部一年次で聴いた「科学論」の先生が筑波先生で、そこで「それぞれの時代には、それぞれの考え方があり、後から貶めるべきではない」と習ったのが後々まで大事だった。クーンのパラダイム論について聴いたのもこの授業だった。この本もそうした立場で編集されている。当時読んだ本では、村上陽一郎『歴史としての科学』(筑摩書房)を同趣のものとして挙げたい。		
時間と自由 / ベルクソン著; 中村文郎訳。(岩波書店, 2001.5. 岩波文庫; 青(33)-645-9)	135/B38	図書館文庫・新書
思想と動くもの / ベルクソン著; 河野与一訳。(岩波書店, 1998.9. 岩波文庫; 青(33)-645-4)	135/B38	図書館文庫・新書
ベルクソンは学部時代に何冊か読んだが、「時間」「歴史」についてのイメージは鮮烈だった。それは「文学史」にも当てはまる。他に『物質と記憶』も感動したが、いずれも文章の美しさ・比喩の素晴らしさといったことが関わっていたように思う。		
フルハウス: 生命の全容: 四割打者の絶滅と進化の逆説 / スティーヴン・ジェイ・グールド [著]; 渡辺政隆訳。(早川書房, 2003.11. ハヤカワ文庫; 5279. ハヤカワ文庫NF; NF286)	467/G73	図書館一般図書
「進化」「発展」ということを相対化し、それは「多様化」(ある意味、エントロピーの増大ということである)の一側面でしかないことを明らかにする本。これも自分の文学史観に強い影響を与えている。		
モーツァルト演奏法と解釈 / エファ・バドゥーラ=スコダ, パウル・バドゥーラ=スコダ著; 堀朋平, 西田紘子訳。(音楽之友社, 2016.5)	762.3/B14	図書館一般図書
私が中学～高校生の頃、音楽界は「原典版」ブームだった。史料批判という方法は、のちに日本古典文学で専門的に実践することになったが、その概要を知ったのはこの本による。むしろこれでその面白さを理解したので、古典作品の批判的処置に興味を持ったのである。ピアノ教師だった母の蔵書で、今でも手許に置いている。		
シューマニアーナ / 前田昭雄著。(春秋社, 1983.9)	762.3/Ma26	図書館オープン書庫(一般図書)
楽曲分析という方法の面白さを示してくれた本。作品分析については、文学作品より先に音楽作品の分析を知ったような次第だった。		
日本伝統音楽の研究: 合本 / 小泉文夫著。(音楽之友社, 2009.6)	762.1/Ko38	図書館一般図書
民族音楽学の名著。理論的視点の設定が、自分の聴いている音楽に対する認識をこんなにも変えるということを経験した。		
音楽のよろこび / レナード・バーンスタイン著; 吉田秀和訳。(音楽之友社, 1966.2)	760.4/B38	図書館オープン書庫(一般図書)
作品について説得力をもって「語る」ことが可能だと知った本。この本のベートーヴェン「運命」の解説は、作曲家が遺したスケッチとの比較で作品の素晴らしさを語る内容で、いまだに忘れがたい。古典和歌研究の論文でその方法を拝借したことが3回ほどある。		
福音書のイエス・キリスト. 1-4. オンデマンド版 (日本キリスト教団出版局, 2018.2)	193.6/F76/1-4	図書館一般図書
トマスによる福音書 / 荒井献 [著] (講談社, 1994.11. [福音書のイエス・キリスト])	193.9/A62	図書館一般図書
聖書学の本であるが、当時所属していた大学合唱団のレパートリーに宗教音楽が多かったために手に取った(私はクリスチャンでは全くない)。福音書群は相互に類似した内容を持っているものだが、それらの比較検討により、それぞれの生成過程と編纂意図を明らかにするもの。作品の「成立論」というジャンルについて、有益な示唆を受けた。		

書名 / 著者等. (出版社, 刊行年月, シリーズ名)	請求記号	配架場所
眼の神殿:「美術」受容史ノート / 北澤憲昭著. (筑摩書房, 2020.12. ちくま学芸文庫)	702.1/Ki75b	図書館文庫・新書
芸術の「制度論」について知った本。これは他のすべてのジャンルに適用可能だし、実際に自分の研究対象で思考実験を何度もした。		
現象学的社会学の応用 / アルフレッド・シュッツ [著]; 桜井厚訳. (御茶の水書房, 1980.8)	361/Sc8	図書館オープン書庫(一般図書)
社会学の視点を作品分析に応用する発想が興味深かった。この後バーガーやルックマンの著書に触れる契機になった本。社会学的思考は、(そのままではないが)自分の多くの論文に影響を与えている。		
社会学の社会学 / ピエール・ブルデュー [著]; 田原音和監訳; 安田尚 [ほか] 訳. (藤原書店, 1991.4. Bourdieu library)	361/B67	図書館オープン書庫(一般図書)
ブルデューの主著群はさっぱり読んでいないが、こうした小論集でもその考え方は十分わかる。文化に対する辛辣な社会学的把握(というよりその裏にある権力関係の暴露)は基本的にはわかりやすいもので、自分の研究とも通底するところがあると感ずる。		
正統と異端:ヨーロッパ精神の底流 / 堀米庸三著. (中央公論社, 1964.12. 中公新書; 57)	190.2/H88	図書館文庫・新書
中世キリスト教史の本だが、「正統」な集団と「異端」な集団がどのような言説を展開してしまうかについての分析は、実は鎌倉時代後期の歌人たちの論争にもみごとに当てはまる。		
驚異と占有:新世界の驚き / S.グリーンブラット [著]; 荒木正純訳. (みすず書房, 1994.4)	250/G82	図書館リベラルアーツ資料(LA4)
この本単独というより、甚野尚志『隠喩の中の中世』や、カントロヴィッチ『王の二つの身体』などを拾い読みした印象を合わせた総体として、ある時代の言説の構造と社会の在り方の相関について興味を持った。それはある意味、自分の現在の研究そのものとも言える。		
自然発生説の検討 / パストゥール著; 山口清三郎訳. (岩波書店, 1970.4. 岩波文庫; 7189-7190)	461/P26	図書館文庫・新書
人を説得するための「実証的方法」ということを最も明瞭に示してくれた本。		
マリヤの讃歌: 他一篇 / マルティン・ルター著; 石原謙, 吉村善夫譯. (岩波書店, 1941.2. 岩波文庫; 青-45)	M40/310/64	図書館地下書庫(旧分類)
参考: マグニフィカート(マリヤの讃歌)訳と講解 一五二一年 / 内海季秋訳. (所収: ルター著作集 / Martin Luther [著]; ルター著作集委員会編. 第1集 4. (聖文舎, 1984.7))	198/L97s/1(4)	図書館オープン書庫(一般図書)
言説の「精度」は実証によって上げることができるが、言説の「強度」は論者の立場によって決まるのだということを知った本。『現世の主権について』なども思い出深い。		
地球史を読み解く / 丸山茂徳編著. (放送大学教育振興会, 2016.3. 放送大学大学院教材; 8960615-1-1611. 自然環境科学プログラム)	450Hd//2016	図書館放送大学テキスト
これはごく最近の本。「歴史」を「全体的なシステム」のレベルで考える上でとても有用だと思ったので、最近の本だけが挙げた。		